

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4091200198
法人名	株式会社 楓
事業所名	グループホームいしまる
所在地	福岡県福岡市西区石丸2丁目4番6号
自己評価作成日	平成28年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成28年12月13日	評価結果確定日	平成29年1月11日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は、木造平屋建て2ユニットの事業所です。  
 ユニット間には中庭を設け開放的な空間を。気候の良い日にはそこを利用して体操など行い、イベント時には出店も行っていきます。施設内も梁を出したりと昔を思わせる居心地のよい空間を提供できる造りとなっています。  
 また、「認知症」という病気の周辺症状に着目し、日中は玄関等の施錠は一切行うことなく、入居者の思い次第でいつでも出入りできるようになっています。  
 そして、最近は大災害による施設被害が多く報道されていますが、その被害を最小限に止めるため自火報装置やスプリンクラー等は性能の良いものを設置しています。防火安全対策(避難訓練含む)にも一丸となり取り組んでおり、先日は福岡市よりそれを評価され「防火・安全 推進プレート」が施設に授与されました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

事業所内の各ユニットの間には中庭があり、外気浴やイベントなどに活用されている。また、室内は中庭から光が射し込むため明るく、居心地良く過ごせるようになっている。開設時より自治会に加入し、隣接の公民館や地域住民との交流も盛んで、地域の一員としてしっかり解け込んでいる様子が見える。また、地域に対し、事業所としてどのような貢献ができるかを前向きに検討している。事業所内では、職員の特技を生かしたレクリエーションなどを行って、生き生きとした表情で勤務している。また、業務改善委員会など、複数の委員会を設置することで責任を持ってさまざまなことの改善に努めることができ、利用者の立場に立ったケアにつながっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で法人理念と事業所理念を唱和することで、理念の再認識を行い共有、実践につないでいる。 また、各ユニットで意思の統一を図るためにユニット理念も作り上げている。	朝礼時に法人理念と、開設時に全職員で作った事業所理念を唱和して再確認しており、職員も理念の意味を理解している。そのため、できることは自分で行ってもらえるような、側で寄り添う支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩で触れ合うことは多い。入居者と一緒に造った畑では、毎日観察や収穫を行っており、横の道を通る地域の方々が足を止め話し掛けて下さったりしている。また、隣の方からは野菜の差し入れもあっている。	開設時より自治会に加入している。また、事業所の隣には公民館があり、交流も盛んである。12月は公民館での餅つき大会に参加予定である。新たに「子ども110番の家」の登録を考え運営推進会議で提案したが、通学路沿いではないことから保留となっている。	開設して2年程で、地域の一員として十分に解け込むことができ、交流が図れている。今後も事業所として貢献できるように、地域の子どものために行える事を検討し、さらに必要とされる事業所となる事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から認知症の症状について相談があったりしている。 また、地域包括支援センターとも地域包括ケアシステムについて話が上ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内で起きていることや事故の要因やその後の入居者の様子等も細かく報告している。 また、意見・要望は必ず伺うようにしており、意見をいただいた際には速やかに対応している。	家族代表、民生委員、自治会、地域包括支援センターの参加があり、また、自治会長、民生委員の任期後も地域代表として参加を促している。主に事業所内の報告をしており、その他議題は都度話し合いながら決めている。以前、敷地内の草むらにゴミ投棄があり、小まめに草を刈るなどの意見がでて、速やかに対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと会議等を通じて情報交換を行っている。 また、今後の地域での協同での取り組み等についても話し合っている。 市役所からは、定期的に現状について連絡がありそこで情報交換を行っている、	市へは運営推進会議の議事録と「いしまるだより」を定期的に郵送しており、利用者・職員への気遣いの連絡や相談しやすい関係作りができています。また、公民館、地域包括支援センターとも良好な関係であり、地域カフェへの協力要請も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加や法人内での勉強会を開催し理解を深めている。 また、身体拘束はもちろん周辺症状についても職員間でしっかり考え、日中玄関の施錠も全く行っておらず、入居者はいつでも出入りできる状況である。	病院退院後、家族より身体拘束希望の利用者がおり、身体拘束のリスクなどを充分説明し、車椅子ベルト、ベッドの四点柵での対応を行った。対応中はベルトなどを外す時間を取り入れ、現在は薬剤調整により落ち着かれており、身体拘束を行わないケアで支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で内容を深め職員間で共有している。 また、上司へ相談したり職員間でも指導し合うことで防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の年間研修計画で制度について学ぶ機会を設けている。 この制度を利用されている入居者もおおり、後見人や役所担当者と話すことも多い。	年間研修計画にも組み込まれており、系列事業所と合同で制度についての勉強会を行っている。パンフレットも常備しており、入居してから成年後見制度を利用している利用者が1名いたため、職員も制度についての理解は充分にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、不安にならないようゆっくりと解りやすい言葉で説明し、配席にも心掛けている。 契約後の疑問点についても、その都度対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事、運営推進会議を通じて、ご家族からの意見、要望を伺っている。 そこで得た意見等は、会議録等で全職員が目を通すようにしている。 また、玄関には意見箱を設置している。	家族の訪問時などに意見や要望を聞き、来所できない家族へは電話で報告した際に聞いている。最近では駐車スペースに関する事、日射し対策によるよしず設置、畑や花壇に関する意見があったため、早急に改善を図っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話の中や定期面談、業務日報等で意見を聞くようにしている。 また、業務改善委員会からもアンケートを取るなどして働きやすい環境づくりに努めている。	関係性も良く、様々な形で意見や提案を聞く機会を設けている。「3時休憩の要望」が出た時には業務改善委員会ですぐに話し合い、「5分の休憩を交代で取る」事が決まるなど意見を反映させている。また、棚の設置やトイレ消臭剤などの設備関係の要望にも改善できる事から少しずつ改善を行うようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	常に職員の労働状況を確認している。 また、各々の持っている力や性格を見極め、委員会等はやりがいを持って活動できるように振り分けている。 新人職員へは、初日にしっかりとオリエンテーションも行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用においては年齢や性別、資格等を条件にせず、その方のやる気や人柄を重視している。 そして、面接時には必ず現場の職員も入るようにしている。	資格が無く未経験でも、人柄や、やる気のある方を採用しており、現在は20代から60代の男女が勤務している。資格取得における勉強の希望休がしっかり取れる体制もできている。陶芸が得意な職員がおり、レクリエーションで陶芸を取り入れたりと特技を生かせるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月に一度行う勉強会の中で、人権等について学ぶ機会を定期的に設けている。 また、機会があれば外部研修にも参加できるように努めている。	公民館を借りて勉強会を月1回行っており、人権教育を学ぶ機会を作っている。本人の希望やシフト調整を行い、全職員が学べるよう考慮している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力や経験を把握し、法人内の勉強会や外部研修も参加できる機会を設けている。 また、外部研修においては案内を掲示したりし自ら希望できるようにもしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列施設との合同での企画はもちろん、区のネットワークの会員でもありそこで様々な活動を通じて質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人に会いに行くようにしており、事前に顔馴染みの関係を築けるようにすることで、安心して入居してもらえる環境を整えている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にアセスメントをとる際に、ご家族の要望や不安を聞くようにしている。 また、事前の施設見学を勧めた際にもご家族との関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等で知り得た情報を入居当日までに全職員と共有し支援できるよう努めている。 また、必要に応じて、迅速且つ的確に他サービスに繋げている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の役割の中で、入居者同士が日々の役割の中やレクを通じて、声を掛け合ったり手伝ったりして互いを助け合う関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には支援される側ではなく支援する立場にもあることを説明している。 定期的な面会や本人が寂しい時などは電話に出いていただいたり、外食や温泉等も連れて行って下さっている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員と馴染みの場所へ訪ねたり、馴染みの方が本人に会いに来られている。 このような関係が途切れることのないようご家族にも協力してもらっている。	日頃の会話から馴染みの場所などをくみとり、商店街や釣り、海岸沿いのドライブ支援を行っている。また、家族にも協力してもらい、親戚や友人と一緒に訪ねてもらったり、馴染みの場所へ出かけてもらったりして、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	理念にもある「できること」「したいこと」を常に考え、日々の生活の中で入居者が入居者を支えられるような環境づくりに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に相談できるよう家族との関係づくりに努めている。 他サービスに繋がった後も電話等で本人の状況を家族やケアマネから伺い状態把握に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメント時から入居後も定期的に希望や意向の把握に努めている。 困難な方の場合は、ご家族等から伺うようにしている。	2、3ヶ月おきに意向の確認を行っている。表出が困難な方の場合には、日頃から表情や行動からくみとり、また、主介護者や主介護者以外の家族からも思いや意向などを聞いて、本人本位となるよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、必ずご家族や関係機関から事前に情報をいただくようにしている。 退院前カンファ等を積極的に開いてもらい、その情報を元に職員間でも入居前カンファを開き情報共有とケアの統一に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス等で話し合った内容を元に、各入居者の日課を作成している。 本人の思いを元に、その人らしく過ごせるよう都度柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の希望、意向を元に担当職員と一緒にケアプランを作成している。 また、記録にはSOAP方式を用いておりカンファレンスに不参加の職員の意見もそれ反映されるようにしている。	1～2名の担当制で、記録はSOAP方式を採用しており、全職員の気付きも記載されている。月1回ケア会議を行って、毎月プランを見直し、本人、家族の意向、全職員の意見を反映した介護計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ニーズに沿った記録を行い、それを元にカンファレンスや会議を開催し、情報共有に役立て計画の見直し、ケアの統一を図っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の様々なニーズに対応するため、地域を巻き込んだ柔軟な支援に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設行事には、必ず地域の方々が手伝いに来て下さり、こちらからも地域行事に積極的に参加するようにしている。 また、日々の買い出しも入居者と一緒に出掛け地域での暮らしを支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診察が必要な場合には、本人やご家族の意向を伺い納得のいく受診先を決定している。 また、その受診先とは密に情報交換と共有を行い適切な医療が受けられるよう努めている。	入居後は提携先の診療所をかかりつけ医に希望される方が多い。他科受診が必要な時は、家族や職員と受診している。提携先の診療所は、地域に根付いており、こまめに様子をうかがったり、医療連携ノートを活用し、密に情報交換、共有を行っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療協定先の往診時に気付きを看護師へ伝えるようにしている。 また、医療連携で訪問する看護師にも「医療連携ノート」を活用し質問や情報を共有し入居者の体調管理に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中はできる限りお見舞いに伺うようしており、そこで状態把握や早期退院に向けワーカーや看護師との情報交換を行っている。 退院が決まった際は、必ず退院前カンファを開いてもらい、病院からの情報収集と職員間での情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際には、ご家族や医療機関とカンファレンスを行うようにしている。説明は、本人やご家族に納得のいく説明を行い、安心して過ごすことができるよう努めている。また、運営推進会議を通して地域の方々にもそのような方がいることを伝えている。	入居時に看取りの意向を確認し、同意書をお互いに行っている。看取りの際は、家族・医療関係者で今後の方向性について話し合いや情報交換を行っている。今までに4名の看取りを行い、亡くなられた後もカンファレンスを開き、どのようなケアができたかなどを振り返り、今後のケアに繋がるような取り組みを行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローチャートマニュアルを見える場所に貼っており、迅速な対応ができるよう努めている。また、実践力についても定期的な勉強会を通じて身に付けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期避難訓練を通じて、署員からの助言を元に迅速かつ的確に動ける体制作りを行っており、マニュアルも作成している。また緊急時には、地域の方の協力も仰げるシステムを作っている。	年2回火災、風水害を想定した避難訓練を行い、連絡網には自治会へ通じる「ちよぼらの会」も登録されている。消防署より避難経路などについて助言を頂き、確実な避難誘導ができるように備えている。また、よりスムーズな避難誘導ができるように地域の方にも事業所の間取りを知ってもらえるよう前向きに検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちに配慮しながら、声掛けの仕方やケアを統一している。また、人格や性格についても契約時のアセスメントでどうようにしており、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	一人ひとりを尊重し、さりげない言葉かけや、誘導時には耳元での声かけを行うなどの配慮をしている。声の大きさなど気になる場所があれば職員同士で注意し合っている。拒否のある方には、職員を交代したり、時間や場所を変えるなど工夫している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「決めつけ」をしないよう日頃から職員の指導を行っており、常に本人の思いを確認し、職員間で物事を決定しないようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースに合わせず、入居者のその時の体調や気分によって無理せずできることを支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装は入居者と一緒に選び、外出やイベント前にはマニキュアを塗ったり装飾品を身に付けたりと、お洒落ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなどは一緒に行うようにしており、好みや食事形態も本人に確認しながら食事を楽しめるよう工夫している。	おかずは湯煎タイプを外部発注し、ご飯や汁物、おやつなどは畑で収穫した野菜や頂き物を使って、利用者と一緒に調理している。給食委員が食べたい物のリクエストを聞き、月1回は事業所で調理を行い、だご汁、炊き込みご飯、お好み焼きやたこ焼きなどを作って楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量やバランス、水分量は毎日管理するようにしている。 また、その方の状態や習慣を把握し、柔軟に支援内容を変更している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。 また、状況に応じて訪問歯科を利用し専門医からの口腔ケアを実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	データを取り排泄パターンを把握することで、トイレで排泄できるよう支援している。 また、それを行うことによりパットやオムツの使用を減らせるよう努めている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレ前のサインや行動を見極め、随時トイレ誘導を行い、オムツを外していくように努めている。現在日中は布パンツにパットで対応し、オムツ使用の方はいない。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、食事やおやつを工夫してみたり、運動する機会の少ない方へはその機会を普段の生活の中で取り入れるよう努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	決して職員側の都合でお誘いはせず、入浴間隔を把握した上で必ず本人に伺うようにしている。 また、入浴の楽しみや爽快感を味わうことができる工夫に努めている。	入浴日や順番などは大よそ決めてはいるが、本人のペースに合わせて支援している。入浴を楽しめるように、入浴剤を使用したり、音楽を流したりと工夫している。また、家族が入浴の支援をしたり、温泉に連れていくなど個々に応じた入浴支援も行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのこれまでの生活習慣を元に生活リズムを作り、昼夜逆転のない安心した睡眠が取れるよう支援している。 また、日中も状況により休む時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋やお薬手帳の管理を薬剤師と共に管理し不明な点はすぐに薬剤師に確認するようにしている。 また、普段の支援の状況や内服薬変更後の状態を薬剤師に情報提供し共有している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり役割を持って生活されている。 また、買い物や散歩、ドライブ等希望があればお連れし、外出行事の中にも外食できる計画を盛り込んでいる。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出るようにしている。 また、希望があれば買い物やドライブにも出掛け、遠方にはご家族が連れて行ってくれる支援体制も取っている。	日常的に近所の公園を散策したり、スーパーに出かけて商品を選んでもらったりしている。2～3ヶ月に1回は、全員で紅葉見物やレストランでの食事を楽しんでいる。遠方への外出には、家族の協力も得ている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は自分で現金を所持されている。 希望があればそれを持って一緒に買い物に行き、そこでの支払いも自分で行われている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでもできるよう支援している。 大切な方からの贈り物に対して、お返事を書き写真も同封し本人と一緒に送りしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や職員が趣味で作成した作品を掲示し、日替わりでBGMも流している。 季節ごとに変わる作品は、入居者と職員が一緒になって作っている。	共有空間は、日替わりでBGMが流れ、中庭からも光が射し、明るく感じられる。壁には、季節が感じられる装飾や作品が飾られている。ゆっくり寛げるソファもあり、居心地良く過ごせる空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にはソファやイスを配置し、ゆっくり寛ぐことができるよう配慮し、入居者はユニット間も自由に行き来できる環境となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族に相談の上、居室には使い慣れたタンスや鏡台、仏壇などが配置されており、壁には大切な方や楽しかった頃の写真を飾って居心地の良い環境を作る工夫を行っている。	居室入り口には顔写真と名前が書かれており、部屋を間違えないような工夫がされている。室内は、タンス、仏壇、テレビ、鏡台など使い慣れた物が配置され、壁には子供の頃の写真や外出時の写真などが飾られており、それぞれの好みや思い出が感じられる居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理念にもある「できること」「したいこと」を一緒に探し、楽しみや生きがいを感じてもらえるよう支援している。 針や包丁、ハサミを使用する方もおられ、昔使用していた彫刻に挑戦される方もおられる。		